Bulletin of Faculty of Education, Nagasaki University : Curriculum and Teaching No.49（2009）29-44

いのちを実感する授業の開発

橋本　健夫*・川越 明日香**

Development of a class that can realize importance of life

Tateo HASHIMOTO・Asuka KAWAGOE

Summary
The rapid change in society begins to have impact on children's environments. Especially, sexual information pollution cause big change in children's sexuality. Although school education should put great value on sex education more than ever, because there is no consensus on the educational concept of sex education in society, it does not expand yet. Therefore, we assumed that sex education in elementary school is the most important to enhance it in school education and conducted a sex education in fourth grader. As a result, it showed that some of them could not have self-affirmation, and others could not be sure about their body. After a practical class that pregnant woman involves in, student had positive feelings about themselves and felt importance of life.

要約
急速な社会の変化は，子どもたちの生活環境に大きな影響を与え始めている。特に性に関する情報が開放的になり，子どもたちの性に対する認識に大きな揺らぎが生じている。このような中で学校教育における性教育はますます重要となっている。しかし，その教育方針が社会の中で統一されていないため，学習の充実が図られていないのが現状である。学校教育における性教育を充実するためには，小学校段階の教育が重要である。そこで，本研究では小学校第４学年を対象とした性に関する授業を行い，この課題に取組むこととした。事前調査により，自己を肯定的に受け入れられていない児童や自分自身の体に関して不安を抱いている児童が多くいることが明らかになった。それを踏まえて，妊婦を活用した学習の実践を行った。その結果，自己肯定感の増大やお互いを思いやる気持の向上が見られ、性教育の充実に向けた方向性を示すことができた。

はじめに

日本社会の発展につれて，女性についての教育及び性に関する教育は大きく変化してき

*長崎大学教育学部　**長崎大学大学院教育学研究科

た。具体的には，戦前のそれらは結婚前の女性の処女性の防護という道徳的観念から女性が逸脱しないように教える教育であった[1]。学校教育が始まった明治時代においては「性」を不潔なもの，いかがわしいものとする価値観を前提とした潔癖主義や隠蔽主義に基づく性に関する教育が広がり，受け継がれていった[2]。

戦後になり，性教育は純潔教育としてスタートした。「男女の間の正しい道徳秩序を打ち立てる」ことを目的としたこの純潔教育は，「売春婦」いわゆる占領軍の「慰安婦」を一般の女性とは異なるものとしてとらえ，一般女性の性が乱れることを防ぐ風俗対策，治安対策として押し進められてきた側面を持っていた[3]。

しかし，1960 年代に入って，女性解放運動が高まりを見せ始めた頃，性に関する学習や教育の重要性に対する認識の深まりが社会に広がり，性に関する科学的側面を重視する性教育への転換が主張され始めた。この結果，徐々にではあるが，客観的な側面を持つ性教育への認識が広がりを見せ始めた。ただ，その教育の学校教育における具体的な位置付けは明瞭でなく，指導方法も曖昧であったために，養護教諭や関心の高い一部の教員によって細々としか進められて来なかった。その中で 1992 年に学習指導要領が改訂され，小学校の保健と理科に「性に関する内容」が導入され，教科書の中の具現化が始った。このときを「性教育元年」と呼び，性教育が学校教育の中で本格的に行われるようになったと指摘する人たちもいる[4]。

近年，携帯電話やインターネット等の普及により，子どもたちを取り巻く情報量が増え，それに伴い性情報の氾濫が見られる。つまり，子どもたちを取り巻く性に関する環境はめまぐるしく変化している。そして，この状況の進行とともに，子どもたちの性非行や性行動の早期化・低年齢化が生じ，性感染症や人工妊娠中絶，HIV 感染者の急増等，子どもたちと性に関する問題が複雑で深刻なものになってきている[5]。このような社会状況において，性教育はますます重要視されるべきである。しかし，1990 年代に「新純潔教育」という言葉でもって，学校教育が進められてきた性教育を「行き過ぎ」「過激」などと誹謗・中傷し，バッシングを行う人たちも現れるようになった[6]。

今，子どもたちに求められている力は，あふれるほどの情報の中で，彼らが生活していく上での適切な情報を見分けるための能力であり，それに基づく意思決定能力の獲得とともにどのように行動していくかを学ぶことである。これは性に関する情報についても同じである。

そこで，本研究では学校教育における性教育の充実方法を追究したいと考えた。具体的には，子どもたちの中にある性に対する意識を明らかにするとともに，それに基づいた授業を行い，性に関する学習に取組む児童が直面する課題も明らかにし，性に関する教育の充実を図ることを目的とした。この中で実践がより児童に具体的に受け入れられるよう，妊婦の活用を試み，児童と交流する機会を設けることにした。これはその過程で児童たちが生命誕生の神秘性や成長の喜びを感じ，自己を肯定的に受け入れるとともに，自他の生命を大切にする心を培うことを助け，性教育の充実を図りたいと考えたからである。

Ⅰ　性に関する教育の位置づけ

現在の学校教育において，性に関する教育は，基本として学習指導要領をもとに展開されている。学習指導要領を踏まえて各都道府県の教育委員会によって教育目標や子どもの

実態等を踏まえた学校独自の方針が作られる。具体的には各学校における教育目標や基本方針に沿って，性教育の目標が決められ，それに基づいて指導内容が決定される[7]。その過程を示したものが図１である。

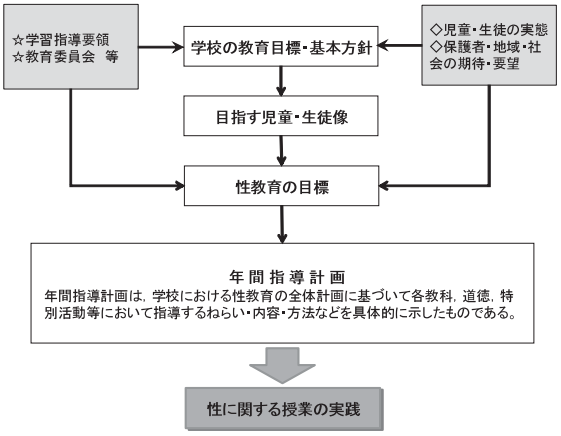

図１　性教育に関する全体計画

１）学習指導要領における位置づけ

1992 年に学習指導要領が改訂され，小学校の保健と理科に「性に関する内容」が導入された。現在もこの両教科を中心として性に関する教育が行われている。ここでは，学習指導要領の中での性に関する内容は，次のようになっている。

小学校学習指導要領解説編　理科（第５学年）[8]

目標

⑴　植物の発芽から結実までの過程，動物の発生や成長などをそれらに関わる条件に目を向けながら調べ，見いだした問題を計画的に追究する活動を通して，生命を尊重する態度を育てるとともに，生命の連続性についての見方や考え方を養う。

小学校学習指導要領解説編　体育（第３，４学年）[9]

目標

⑶　健康な生活及び体の発育・発達について理解できるようにし，身近な生活において健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。

その他にも生活科や家庭科，道徳等，性に関連する内容を含んだ教科や領域も存在している。つまり，「性教育」は，一定の教科で行われるのではなく，各学校で作成された指導計画をもとに，各教科，道徳，特別活動の中で適宜実施されるべきとの方針を，学習指導要領は示しているのである。

Ⅱ　各学校における性教育の位置づけ

性に関する教育がどのように各学校で位置づけられているのだろうか。これに関しては

長崎市の報告がある。長崎市では各学校での実施状況を把握するために市内全域の小学校（75 校）に質問紙調査を行っている[10]。その調査結果の一部を簡潔に述べてみたい。

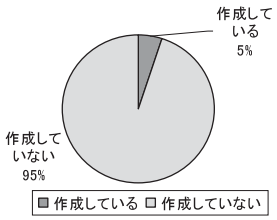

図２　性教育に関する全体計画を作成しているか

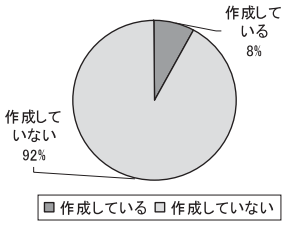

図３　性教育に関する年間指導計画を作成しているか

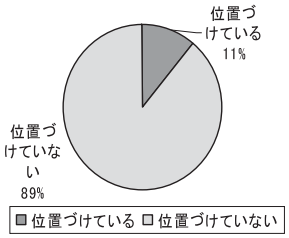

図４　校務分掌において，性教育の担当者を位置づけているか

この調査結果から分かるように，長崎市内の多くの小学校で性教育に関する全体計画が作られておらず，年間指導計画もほとんどなく，校務分掌としても位置づけられていない。これでは子どもたちを取り巻く環境が悪化しているにもかかわらず，それに対応する形で進められるべき教育が無いのに等しいと言える。

Ⅲ　性教育の充実に向けた試み

１）子どもたちの発達と性

冒頭でも述べたように，近年，携帯電話やインターネットの普及により，子どもたちを取り巻く情報量が増え，それに伴い性情報の氾濫が見られる。つまり，子どもたちを取り巻く性の環境はめまぐるしく変化しているのである。そのため性教育の充実を図るためには，子どもたちの身体的側面のみならず，心理的側面や社会的側面，周囲との人間関係など性の課題を多面的に捉える必要がある。特に，小学校の６年間は生涯の中でも心身の発達・発育の変化が著しく，この時期の性の学習体験が将来の性意識や性行動に深く影響を及ぼすと考えられる。そのため，性教育の基本目標を設定し，その他に６年間を低学年，中学年，高学年，あるいは各学年に分け，発達段階ごとに目標設定をする必要があると考える。

２）実践に向けての考え方

性教育の充実のためには，まず，子どもたちの実態を把握すると同時に，近年の子どもたちを取り巻く社会環境に対応する授業が展開されなければならない。そこから性に対する正しい認識や自律心を身に付け，生命の大切さに気づく心を育むことが望まれる。

文部科学省では，そのような状況に対応するために 1999 年に「学校における性教育の考え方，進め方」を発行し，性教育の目標を明確にしている。その中で子どもたちの性に関する発達課題を「体の発育・発達」，「心理的な面」，「男女の人間関係」，「社会的な面」として４つに分類し，指導内容を提示している[11]。

表１　「学校における性教育の考え方，進め方」

小　学　校					
目 標 ①　生命の誕生及び心身の発育・発達における男女差や個人差に関する基礎的事項を理解するとともに，自己の性を受容し，自分を大切にしようとする心情や態度を育てる。 ②　男女には体の特徴や発達段階などに違いがあるが，互いに相手の人格を尊重し合うことが大切であることを知り，相手を思いやる心情や態度を育てる。 ③　家庭における役割は，男女の別なく分担し，互いに助け合うことが大切であることを知り，家庭や社会の一員として適切な判断や意志決定ができる能力や態度の基礎を育てる。					
		体の発育・発達から	心理的な面から	男女の人間関係から	社会的な面から
低学年	特徴	身体的な発達速度は安定するが，生理的な機能の発達は未熟な時期	自分について赤ちゃんの誕生に疑問を持ったり，性や性差に関心をもったりする時期	自己中心的行動が多いが，性役割意識が少しずつ芽生える時期	精神的には未熟で，保護者や教師への依存度が高く，影響を受ける時期
	指導内容	男女の体の違いに気付かせ自分や相手を大切にしようとする心情や態度を育てる	動物飼育や植物栽培を通して生命の大切さを知らせ，両親の愛情と保護によって育てられていることに気付く。	男女が互いに仲よくし，助け合い，自他を大切にしようとする態度を育てる。	生活の場が広がり，行動範囲も拡大することから，犯罪被害の防止について指導する。
中学年	特徴	体の発育・発達によって，初経，精通が起こり始める時期	自己中心的な考え方から，客観的に物事を考えることができる時期	体の発育・発達に男女差が生じ始め，性意識や異性に対する関心が芽生える時期	自分の家族を他と比較したり，自分を取り巻く社会環境について認識し始める時期
	指導内容	初経，精通の仕組みを理解させ，個人によって違いがあることを知らせ不安を解消させる。	自分や他人のよさや他人への思いやりの気持ちや自他の生命を大切にする態度を育てる。	男女が相互に理解し合い，好ましい異性観や性意識を形成させる。	様々な家庭の形や役割の違いがあることを理解させ，家族での役割を果たす態度を身に付ける。
高学年	特徴	体つきの変化や初経・精通などを迎え，その個人差などに不安や悩みをもつ時期	体つきの変化や心の発達にともない，不安や悩みが生じる時期	思春期の心身の変化に伴い，異性への関心が高まり，自己の性への認識が確かになる時期	大人より友達との関わりを大切にし，精査や男女の性役割を意識し始める時期
	指導内容	自分の体の変化や個人による発育の違いについて理解させ，それを肯定的に受け止めさせる。	心も体と同様に発達すること，心と体は密接な関係があることを理解させる。	異性に関心を持ったり，親しくしたいという気持ちがうまれたりすることを知らせる。	男女の性差はあるが，役割は固定的ではないことを理解させ，協力して生活する態度を身に付けさせる。

Ⅳ　授業の実践

１）事前調査

実践対象である小学校第４学年の児童が「いのち」に対してどのように考えているの

かを把握するための質問紙調査を行った。その結果を項目ごとに示す。

	質　問　内　容	回答項目	人数 男子	人数 女子	割合（%）
1	自分のことは好きですか。	好き	2	7	26.5
		好きではない	3	2	14.7
		考えたことがない	12	8	58.8
2	自分の誕生を家族のみんなはよろこんだと思いますか。	よろこんだ	14	14	82.4
		よろこばない	0	0	0.0
		わからない	3	3	17.6
3	自分が小学生になってから自分の家や親戚の家で赤ちゃんが生まれましたか。	生まれた	9	9	52.9
		生まれていない	8	8	47.1
※4	自分の家や親戚の家で赤ちゃんが生まれたときはどんな気持ちでしたか。	うれしい	5	7	22.6
		かわいい	6	8	26.4
		よかった	4	5	17.0
		いい気持ち	5	4	17.0
		自分も赤ちゃんがほしい	3	3	11.3
		さびしい	0	1	1.9
		かわいくない	0	1	1.9
		いやな気持ち	0	0	0.0
		その他	1	4	9.4
5	家の人と，生まれたときや赤ちゃんの頃のことを話すことがありますか。	ある	13	17	88.2
		ない	4	0	11.8
6	普段の生活で思いやりのある行動ができていますか。	できている	3	2	14.7
		まあまあできている	4	7	32.4
		わからない	8	6	41.2
		あまりできていない	0	1	2.9
		できていない	2	1	8.8
7	普段の生活で男女仲良く行動できていますか。	できている	8	7	41.2
		まあまあできている	4	7	32.4
		わからない	3	1	11.8
		あまりできていない	1	2	11.8
		できていない	1	0	2.9
8	あなた自身の体やこころの成長のことで不安に思っていることや困っていることはありませんか？	ある	5	10	41.2
		ない	12	7	58.8

※項目４は複数回答を可能としている。

まず，ここ数年で家族や親戚の家で赤ちゃんが生まれたかという問いについての結果を図５に示す。この問いを設定した理由として，兄弟や親戚等で赤ちゃんに触れ合った経験のある児童がどのくらい存在するか，またそれによって生命誕生が身近に感じられているのではないかと推測したからである。結果としては，身近に赤ちゃんが生まれた割合は，約半数であった。

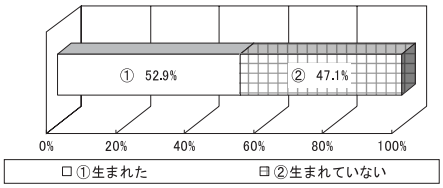

図５　数年間で自分の家族や親戚の家で赤ちゃんが生まれたか

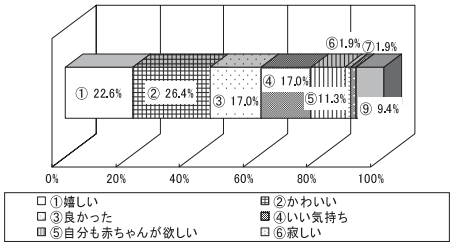

図６　自分の家や親戚の家で赤ちゃんが生まれたときの気持ち

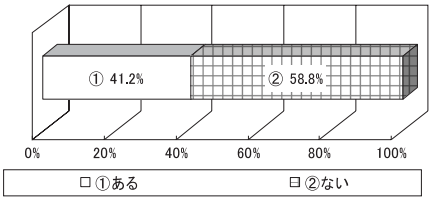

図７　自分自身の体に関する不安や周囲から言われて嫌な気持ちになった経験

次いで，赤ちゃんが生まれたときの気持ちについての問いに対する結果を図６に示す。多くの児童が肯定的な感情を抱いていたが，一方で「かわいくない」，「寂しい」，「不安」といった否定的な感情を抱く児童も存在した。これは，現実を受け入れながらも自分自身と両親の距離に悩む姿を浮き彫りにしている。

また，自分自身の体に関する不安や周囲から言われて嫌な気持ちになった経験の有無についても問いを設けた。その結果が図７である。嫌な気持ちになった経験があると回答したのが約 40 %と比較的高い割合を示した。中でも女子の割合が圧倒的に多い。この質問紙法では限界があるため，聞き取り調査も行った。それによると男子は身長が伸びないことや太っていることなどの体型に関する不安を多く抱いていた。一方，女子は男子同様に体型のことの他に生理が始まらないことや結婚ができるか，子どもが産めるかなどの不安も多く抱えていることが分かった。

２）授業開発

子どもたちニーズに合った性に関する教育を展開するために，授業の実践を行うことにした。授業は本学部附属小学校第４学年の１クラス（38 名，男子 17 名，女子 18 名）である。授業は 2008 年２月に実施した。この実践では保健体育の「育ちゆくわたし（全４時間)」の単元を活用したが，通常，対象校では１時間目を養護教諭と栄養教諭を含めたチームティーチングで授業を構成し，２時間目と３時間目は教科書をもとに担任教諭が進めるという形式で授業が展開された。本研究では１時間目を通常通り養護教諭と栄養教諭が行い，残り３時間を研究推進のための授業として著者が行った。その中で２時間目ではゲストティーチャーとして妊婦を招聘した。

授業は，巻末資料として掲げる学習指導案に沿って行われた。特に妊婦を活用した場面についてのみ詳しく述べると次のようになる。

妊婦は黒いマントを身にまとった状態で教室に入り，子どもたちの興味を引きつけた。そして，ゲストティーチャーがどのような状況なのかについて推測させた。妊婦であると分かってからは，児童が妊婦に対して抱く思いを引き出したが，予定日や性別を聞きたがる児童やおなかに触れてみたいという児童等，様々な反応が出た。授業の中では，

妊婦との関わりを出来るだけ多くしようと思い，おなかの中について考える時間も設けた。聴診器で赤ちゃんの心音を聞いたり，児童の質問を直接妊婦が答えるという形式をとったことで児童にとって，おなかに触れたことや，おなかの中の音を聞くことができた喜びは大きかったようである。

最後にはゲストティーチャーの妊婦から次の３つのことを話していただいた。１つは生命が宿ったことが分かったときの喜び，２つ目は生まれて来ることを待ちわびている様子，そして，３つ目は 10 ヶ月という期間，大切に育てているということである。この話が進むにつれて，児童はそれまでの賑やかな様子が静まり，話に聞き入っていた。

３）事後調査

授業後に児童の生命誕生に対する思いを把握するために質問紙調査を行った。その結果を項目ごとに示す。

	質　問　内　容	回答項目	人数 男子	人数 女子	割合（%）
1	この学習を終えて，自分のことを好きになりましたか。	好きになった	7	6	39.4
		嫌いになった	0	1	3.0
		今までと変わらない	4	9	39.4
		わからない	5	1	18.2
※2	自分が生まれたときの話を家族から聞き，どのような気持ちになりましたか。	嬉しかった	10	13	33.8
		もっと詳しく聞きたくなった	5	9	20.6
		自分を大切にしようと思った	8	8	23.5
		友達を大切にしようと思った	4	6	14.7
		あまり聞きたくなかった	0	0	0.0
		嫌な気持ちになった	0	0	0.0
		何にも思わなかった	1	0	1.5
		わからない	3	0	4.5
		その他	0	1	1.5
3	この学習を終えて，自分や友達のからだやこころのことがわかりましたか。	わかった	13	17	90.9
		わからなかった	3	0	9.1
4	この学習を終えて，自分や友達のからだやこころのことをもっと知りたいと思いましたか。	知りたいと思った	5	10	45.5
		知りたくないと思った	2	0	6.1
		どちらとも言えない	4	3	21.2
		わからない	5	4	27.3
5	これからの生活の中で思いやりのある行動をとろうと思いますか。	思う	10	17	81.8
		思わない	0	0	0.0
		今までと変わらない	2	0	6.1
		わからない	4	0	12.1
6	これからの生活の中で男女仲良く行動しようと思いますか。	思う	7	14	63.6
		思わない	1	0	3.0
		今までと変わらない	4	1	15.2
		わからない	4	2	18.2

※項目２は複数回答を可能としている。

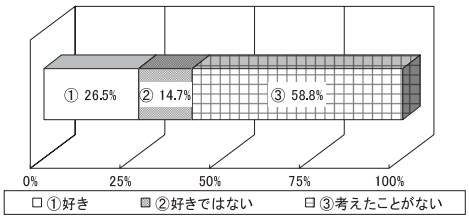

図８　自分のことが好きか

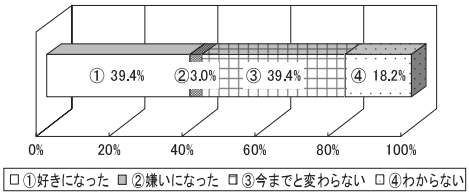

図９　学習後，自分のことを好きになったか

さらに授業前との意識の変容を見るために，事前調査と同様の項目も含んだ。その結果を図８，図９に示す。

図８は「自分のことを好きか（事前調査)」，「学習後，自分のことを好きになったか（事後調査)」という問いの結果である。事前調査では26.5％の児童が自分のことが好きであると回答していたものの，14.7％の児童が好きではないと回答していた。授業後の回答は約40％の児童が肯定的な回答を示し，明確な変化が見られた。

本研究における実践では，自己肯定感を感じる児童が増えたことや，命を真剣に考えることができたことなど性教育の充実という目標を達成することができたと考えている。しかし，授業後の調査によって，自己を否定的に考える児童も現れたことなど課題も見つかった。

考察

今回は保健の時間で実践を行ったが，第５学年の理科を始め，生活科や家庭科，道徳など他教科・領域の内容とも関連を持たせることでこの学習がより効果的な成果をもたらすとも考えられる。誕生の仕組みや母体と胎児との関係，成長するいのちの営み，これらは児童にとって非常な興味，関心事である。また，性に関する学習に続く生命誕生は家族との絆を見つめ直す機会となる。

本実践では，２時間目に妊婦を招聘し，おなかに触れる，心音を聴く，質問をする等の体験活動を行った。妊婦に関して，写真や話では見聞きしたことがあるという児童にとっても妊婦との実際の関わりは強烈な印象を残したようである。中にはおなかの中の赤ちゃんと自分自身を重ね合わせ，母親の苦労や周囲の期待などを感じ取る児童も存在した。妊婦の活用にあたっては様々な問題を乗り越えなければならないが，その活用は予想以上の効果をもたらしたと考えている。

これらの学習から自分や友人等の生命がかけがえのないものであるという認識が生まれることによって，彼らは自己の性や生命について深く考えることが可能となる。その結果として，家族や友人などの絆を深めることができれば，戦後求めてきた性教育の充実への一歩が始まると考えている。

おわりに

本研究においては，実践する時間が諸般の事情で予定よりも少なくなってしまった。また，実施学級も１クラスとなり，性教育の充実のための実践としては少なかった。その結果，実践内容も多岐に渡ることができなかった。今後はこの点に十分配慮し，実施クラス

を増やすなどの実践が必要であると考えている。

本研究は平成 20 年～ 23 年の科研「持続可能な社会のための科学教育を具現化する教師教育プログラムの開発」（代表者：野上智行）の一貫として行われた。

謝辞

本研究の授業実践にあたり，長崎大学教育学部附属小学校中村俊一先生，ゲストティーチャーの中村なみ様には本当にお世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

参考文献

⑴　佐橋憲次　山本直英　村瀬幸浩　「性教育総論と用語解説」　p. 19　あゆみ出版　1986 年
⑵　⑴に同じ　p. 20
⑶　“人間と性”教育研究協議会
「新版　人間と性の教育　性教育のあり方，展望」　pp. 26 ～ 35　大月書店　2006 年
⑷　池谷壽夫　「セクシュアリティと性教育」　p. 187　青木書店　1993 年
⑸　⑶に同じ　pp. 10 ～ 16
⑹　浅井春夫　北村邦夫　橋本紀子　村瀬幸浩：
「ジェンダーフリー・性教育バッシング」　p. 3　大月書店　2003 年
⑺　文部科学省　　学校における性教育の考え方，進め方　pp. 1 ～ 42　ぎょうせい　1999 年
⑻　文部省　　小学校学習指導要領解説　体育編　p. 41　文部省　1999 年
⑼　文部省　　小学校学習指導要領解説　理科編　p. 41　文部省　1999 年
⑽　長崎市教育委員会　性教育実態調査　　2007 年 7 月実施
⑾　⑺に同じ　　pp. 6 ～ 8

参考資料１

保健学習指導案

平成 20 年２月 25 日
第４学年２組　男子 17 名　女子 18 名
第４学年２組教室
指 導 教 員　　中　村　俊　一
授　業　者　　川　越　明日香

１　単　元　名　　育ちゆくわたし

２　単元について

誕生の仕組みや母体と胎児との協力・共同関係，いのちの営み，これらの事実は児童にとって興味，関心のある内容である。また，生命誕生に関する学習は母親との絆を見つめ直す機会になり，同時に自分や友人，その他すべての人間がもついのちがかけがえのないものであるという認識につながっていく。この観点から，生命誕生を軸にした学習は，子どもたちに生きることへの自信や安心感を与え，温かな友人関係の形成や学級での適切な生活態度の形成に資するものであると考える。

指導にあたっては，まず妊婦のおなかの中に興味を持たせる。ゲストティーチャーが児童の疑問に答えていく中で，母親と胎児に備わっている「生きる力」や「成長しようとする力」を実感させていく。まとめの過程では，いのちに対する驚きや感動，激励や感謝の気持ちを母親のおなかの中にいた自分宛てに手紙を書かせることで，いのちを大切にし，力強く生きていく自信をもたせたい。

３　単元の目標

○　自分のからだの成長・変化や個人による発育の違いを肯定的に受け止めようとする。
○　身体の発育・発達について理解することができる。

４　指導計画（全４時間）

○　「よりよい発育」に欠かせない，食事・運動・休養について理解する。…１時間
　平成 20 年２月 26 日（火）　２校時目
○　生命誕生について興味をもつ。……１時間（本時）
　平成 20 年２月 27 日（水）　４校時目
○　思春期におけるからだの変化について理解する。……１時間（本時）
　平成 20 年３月３日（月）　２校時目
○　思春期における心の変化について理解する。……１時間（本時）
　平成 20 年３月５日（水）　１校時目

5　本時の目標と展開

【2時間目】生命誕生について興味をもつ。

目標

○　母親のおなかの中で自分がどのようないのちの営みをしていたかを知り，いのちのすばらしさや自分の生命力の強さに気付く。

○　生命の連続性について理解する。

展開

過程	児童の学習活動	教師の指導・支援	備考
つかむ／深める／まとめる	1．ゲストティーチャー（以下 GT）と出会い，様々な思いをもつ	○ GT の首から下にはマントをかぶせ，子どもたちの興味を引きつける ○おなかの感触，音などの予想を立てさせる（柔らかい，ドクドク） ○ GT（妊婦）のおなかを触ったり，聴診器で赤ちゃんの心臓の音を聞いたりして，妊婦や赤ちゃんに対する興味を抱く ○「○○について知りたい」という子どもたちの思いを引き出す 例）赤ちゃんの性別，おなかの中の様子，出産予定日，生命誕生のプロセスなど	聴診器
	2．子どもたちの思いをもとに2時間の学習計画を立てる	○子どもたちの意見をまとめ，学習の見通しを立てる ①おなかの中の赤ちゃんの様子 ②誕生までの仕組み	
	めあて 妊娠している人のおなかの中で赤ちゃんは何をしているのだろう		
	3．GT のおなかの中について考える（グループ学習）	○ GT に聞いてみたいことを随時聞きに行くことができるようにする ・息はどうするのか ・栄養はどうやってとるのか ・だんだん大きくなるのか ・排泄はどうするのか	
	4．GT の話を聞き，生命誕生について肯定的に捉える	※母親だけでなく，おなかの中の赤ちゃんもがんばって生きていることを感じさせる	
	5．学習を振り返る 6．次時への見通しを持たせる	○ゲストティーチャーにお礼の手紙を書く ○次時までに自分が生まれたときのことを家族と話すように課題を与える	ワークシート

【３時間目】思春期のからだの変化について理解する。

目標

○　生命誕生の仕組みについて理解する。

○　２次性徴について理解する。

○　発育には男女差や個人差があることを理解する。

展開

過程	児童の学習活動	教師の指導・支援	資　料
つかむ／深める／まとめる	１．前時の振り返り ２．赤ちゃんと子どものからだの違いをて考える	○数直線上に０歳，10歳の数字を並べ，違い（身長や体重等）を考える　さらに20歳の数字を加える	数直線の紙 テープ 顔写真 文カード
	めあて 私たちのからだとおとなのからだの違いはなんだろう		
	３．子どものからだとおとなのからだの違いについて考える	○自分自身とおとなとの違いについて共通する部分と男女それぞれに見られる部分を考えさせる ・年齢，目に見える部分（身長，体重，毛，声，体格など）の他に目に見えない部分が出てこない場合，成長するのは体の外側だけでなく，内側も同様に変化することに着目させる ・先行知識のある子どもが回答した場合，その発言を生かし，さらに切り込む　その際，知識が曖昧な場合は補足をするか，正しい知識を獲得させる	
	４．女性のからだに着目し，赤ちゃんを産むための準備としてからだが変化することを知る	○胎児が育つ場所について考え，そこで安心して生活できるようにさまざまな機能があることを知る ○その中でも赤ちゃんを産む準備として月経があることを理解させ，大まかな機能を説明する（キーワード：子宮，卵子，卵巣，月経，初経，血液）	胎児が育つ場所が書かれた資料 月経の資料
	５．男性のからだに着目し，おとなになるためにからだが変化することを知る	○女子だけではなく，男子も大人になる準備をしていることを伝え，それぞれが自分のこととして捉えられるようにする ○赤ちゃんを作る準備として射精があることを理解させ，大まかな機能を説明する	射精の資料
	６．生命誕生には男性と女性の存在が必要であることを知る。	○自分が母親に似ていたり，父親に似ていたりすることから，母親のいのちのもとと父親のいのちのもとが一緒になると，いのちが生まれるようであるということを伝える　母親だけではいのちが生まれないことに気付かせ，男女の存在の意義や協力の大切さを感じさせる	
	７．本時の学習を振り返る。		

【４時間目】思春期における心の変化について理解する。

目標

○　からだの成長にともなって，知識や感情も発達することを理解する。

○　成長にともなって，人とのかかわりが増し，そのなかで成長していくことを理解する。

○　心の発達には，大脳がかかわっていることを知る。

○　思春期になると，自分のことが気になったり，人に認めてもらいたいと思ったり，異性を意識するようになったりすることがあることを理解する。

　また，このような心の変化は，だれにでも起こることを理解する。

○　人を好きになるという人間の自然の感情を理解し，男女相互の理解を深め，よりよい人間関係をつくろうとする心を養う。

展開

過程	児童の学習活動	教師の指導・支援	資　料
つかむ／深める／まとめる	１．心について考える	○「心」という文カードを提示し，それぞれの思いを引き出す ○どちらかというといい面が多く出されることが予想される　そこで，いい面ばかりではないのではないかと揺さぶる	
	２．心の場所について考える	○呼吸をする場所は肺であるが，呼吸の場所ははっきりしないことと同じように，なかなか答えにくい　大脳の中にあることを理解させる	
	３．心の働きについて考える	○予想される意見として話す，書く，読む，計算する等が挙げられる	
	めあて 心の発達について考えよう		
	４．心の発達について考える	○どのようなときに心が発達しているかを考える考えにくい場合，幼少期を思い出し，その頃と変化したことを挙げさせる ○異性を意識した経験の有無を問い，心の成長を理解させる ○男女仲良く生活していくために必要なことを考えさせる	
	５．本時の学習を振り返る	○学習をしてわかったことや感想を書く。	ワークシート

参考資料２

授業実践対象児童に行った事前・事後意識調査

事前調査

問１．あなたは自分のことは好きですか？

① 好き　[　]　② 好きではない　[　]　③ 考えたことがない　[　]

問２．あなたの誕生を家族のみんなはよろこんだと思いますか？

① よろこんだ　[　]　② よろこばなかった　[　]　③ わからない　[　]

問３．あなたが小学生になってから，自分の家や親戚の家で赤ちゃんが生まれましたか？

① 生まれた　[　]　② 生まれていない　[　]

問４．自分の家や親戚の家で赤ちゃんが生まれたときはどんな気持ちでしたか？

① うれしい　[　]　② かわいい　[　]　③ よかった　[　]　④ いい気持ち　[　]

⑤ 自分も赤ちゃんがほしい　[　]　⑥ さびしい　[　]　⑦ かわいくない　[　]

⑧ いやな気持ち　[　]　⑨ その他

問５．家の人と，生まれたときや赤ちゃんの頃のことを話したことがありますか？

① ある　[　]　② ない　[　]

問６．普段の生活で思いやりのある行動ができていますか？

① できている　[　]　② まあまあできている　[　]　③ わからない　[　]

④ あまりできていない　[　]　⑤ できていない　[　]

問７．普段の生活で男女仲良く行動できていますか？

① できている　[　]　② まあまあできている　[　]　③ わからない　[　]

④ あまりできていない　[　]　⑤ できていない　[　]

問８．あなた自身の体やこころの成長のことで不安に思っていることや困っていることはありませんか？また，まわりの人から体のことを言われて嫌な気持ちになったことはありませんか？もしあったら書いてください。

① ある　[　]　② ない　[　]　具体的（　　）

事後調査

問１．この学習を終えて，あなたは自分のことを好きになりましたか？

① 好きになった　[　]　② 嫌いになった　[　]　③ 今までと変わらない　[　]

④ わからない　[　]

問２．あなたが生まれたときの話を家族から聞き，どのような気持ちになりましたか？
あてはまるものすべてに〇をつけてください。

① うれしかった　[　]　② もっと詳しく聞きたくなった　[　]

③ 自分を大切にしようと思った　[　]　④ 友達を大切にしようと思った　[　]

⑤ あまり聞きたくなかった　[　]　⑥ 嫌な気持ちになった　[　]

⑦ 何にも思わなかった　[　]　⑧ わからない　[　]

⑨ その他（　　）

問３．この学習を終えて，自分や友達のからだやこころのことがわかりましたか？

① わかった　[　]　② わからなかった　[　]

問４．この学習を終えて，自分や友達のからだやこころのことをもっと知りたいと思いましたか？

① 知りたい　[　]　② 知りたくない　[　]　③ どちらともいえない　[　]

④ わからない　[　]

問５．これからの生活の中で思いやりのある行動をとろうと思いますか？

① 思う　［　］　② 思わない　［　］　③ 今までと変わらない　［　］　④ わからない　［　］

問６．これからの生活の中で男女仲良く行動しようと思いますか？

① 思う　［　］　② 思わない　［　］　③ 今までと変わらない　［　］

④ わからない　［　］

問７．川越先生が行った３回の授業を思い出してみてください。あなたがもっとも印象に残った内容は何ですか？

どんなことでもいいので，具体的に書いてください。

例　：　妊婦さんのおなかに触れたこと。など　　内容（　　）